

平成22年5月29日（土）浜松地域情報センターにおいて平成21年度決算総会が945名（当日出席者58名、書面表決出席者889名）の下に開催された。

第1号議案	平成21年度事業経過報告
第2号議案	平成21年度決算報告
第3号議案	平成21年度業務及び会計監査報告
第4号議案	次期総会開催について

すべての議案が賛成多数で可決された。

平成21年度決算総会 書面表決における反対、意見および回答

1. 第2号議案 反対意見

佐野 文子 <松愛会 松田病院>

理由：スタッフの飲食代金は本人負担で良いのではと思います。

【回答 豊田会計部長】

研究班が行う研修会は静臨技の重要な事業です。事業に携わる方々の食事代が事業費から支払われることは、特に問題ないと考えます。

ご指摘の「スタッフの飲食代金」は、定款、諸規程に従い、会計事務取扱規程第13条により執行されています。ご理解を頂きたいと思います。

2. その他の意見

①：遠藤 佐夫<自宅会員>

日本医学検査学会開催地・担当都道府県の中で、奈良県がないので、第60回では奈良県にしたら良いのですか

【回答 山口組織調査部長】

日臨技が全国を8地区に区分し、全国学会の開催についても「学会在り方委員会」で検討され、開催地と担当技師会が同一地域であれば、同一都道府県開催は問わないという決定がされ、会員が少なく、大きな会場を擁しない技師会でも開催が可能となりました。第59回学会も和歌山県技師会が担当で、兵庫県の神戸市で開催されました。第60回は奈良県でとのご意見ですが、今回は60回の記念学会として長野県技師会が担当で、「東京都」での開催が予定されています。

②：高木 義弘<静岡県立こども病院>

榛葉氏は前年度まで会計部長だったのではないのでしょうか。監査される側にいた人が監査しても意味ないような気がします。

【回答 横地会長】

ご指摘ありがとうございます。ごもっともな意見だと思います。前会計部長に監事をお願いした経緯は、法人化の再登記に向けて会計手法を大幅に変更し、新会計基準、さらに最終的には、21年度会計基準に移行しなければなりません。理事への重任をお願いしたのですが、自施設の都合により重任が難しいとのことでしたが、無理をお

願ひして監事としてご指導いただけることになりました。今回の監査は、会計監査については石川監事を中心に、業務監査についてはお二人にお願いしました。前会計部長を監事としてお願いした経緯と、法人格再登記作業の円滑な遂行のための処置としてご理解をお願い致します。

③：荒井 知子<静岡市立静岡病院>

技師会主催以外の研修会（自施設主催の場合、細胞学会静岡県支部主催の場合等）の案内を会報に掲載して頂く場合は、会長に掲載願ひを提出していましたが、通常の研修会と同様に願ひしたい。

【回答 高島渉外広報部長】

会員の資質向上のためにも各種研修会を会報に掲載し、情報提供していくことは多いに賛成ですが、技師会に持ち込まれる事例の中には、メーカーの色濃いものや営利目的が強いものなども少なからず、含まれていることも事実です。会報に掲載して広く会員に情報として提供するには、内容を吟味する必要性も感じています。県独自の研究班を立ち上げ、広範囲にわたるテーマについて、各施設主催の研修会やテーマとして研究班活動で取り上げることが難しい研修会などを技師会として支援できる体制を整えていきたいと考えています。細胞学会静岡県支部活動などは、技師会の登録団体として承認されれば、会報による情報提供などは可能だと思います。

④：赤羽 荘資<㈱中部衛生検査センター>

特にありません。本会の発展を祈ります。

【回答 伊藤事務局長】

ご意見ありがとうございます。

公益法人取得など時代は変わりつつありますが、会長の下、理事がまとまり会の発展にむけて頑張っていきます。

⑤：田代 守義<伊豆保健医療センター>

県技師会の事業は、名実共に公益と見ております。また、「医療安全全国共同行動」に日臨技の名称を確認し、前回無かったのでホッとしているところでした。

役員皆様の技師会活動に敬意と感謝を申し上げます。

【回答 上林学術部長】

技師会の法人化再登記の問題は、「公益法人」「非営利社団法人」の選択肢が考えられますが、上部団体である日臨技がはまだ検討中で方向性が示されていません。必ずしも日臨技に追随しなければならないということではありませんが、全国8ブロックの支部化、各種企画の連携など運用面で、同調する方向で模索中です。公益法人を取得するには、公益事業が事業費全体の50%以上であることが条件です。会員の会費収入で運営され、職能団体として、会員の資質向上を主たる目的として運営されている技師会ですので、公益事業比率の解釈が大きな壁となっているのが実情です。今後、広く会員に情報提供しながら、方向性について検討していきます。

「医療安全全国共同行動」の一環として、日臨技の対応に先駆けて、「静岡フォーラム」に日臨技として積極的に参画させていただき、大きな成果を上げることができ

ました。今後も他団体とも協調できるような柔軟な姿勢で、技師会活動に取り組んでいきたいと考えています。

出席された会員からの意見

☆ 藺田 明広<静岡県立総合病院>

精度管理調査委員を今までやっていたが、後任の人を決めるのに自分で探さなければならず非常に苦労した。研究班と連携し2年交代でうまく回っているところもあるようだが、難しいのが現状であるので理事会や技師長会で役回りをサポートしていただけないでしょうか。また、愛知県技師会の活動を見ると、若い人材が育っている印象を受ける。臨床化学研究班では、ある程度の年代になって管理上の立場から違うセクションの業務に移られた方も2名ほどいた経験から、若返りのため、愛知県の様に世代交代を推進するようなことは技師会でできないでしょうか。

【回答：上林学術部長】

貴重なご意見ありがとうございます。

精度管理についても研究班についても同じことですが、若い人たちがどんどんやっていくことが組織の活性化に繋がっていくことだと考えています。実際どのようにしていくのかというのは、いくつか考えられますが、ある程度活性化して回っている例としては、病理であり浜松医大の五十嵐さんから磐田市立の栗田さん、そして焼津市立の田森さんへと非常にローテーションがうまくいっているの、そういうところがどのようにやっているのかということの参考にする必要があるのではないかと考えています。また、血液研究班では、年毎にローテーションで変わっているようです。そこらへんを見ていくと、研究班の活動が非常に活発なところが若い人たちをどんどん吸い込んでいく形をとっていると思います。精度管理も研究班とリンクし、班長と意見交換していただいて、たとえば臨床化学であれば、臨床化学の研修会をどんどん活性化していくことによって、参加者を増やしつつその中で一生懸命やっていただける方を引っ張っていく形で世代交代を進めていく形が理想ではないかと思っています。

☆ 藺田 明広<静岡県立総合病院>

私たちが若い頃は、研究班の勉強会は自分たちの手で行っていることが多かった。お金がないのでメーカーにお願いすることも必要かと思いますが、順繰りにいろんな検討結果を発表したりする研究班の勉強会の復活も必要ではないかと思っています。

【回答：上林学術部長】

大変よいご意見だと思います。

臨床化学をはじめとする各研究班では長年にわたり一生懸命やっていただいております。研究班の補助金は、静臨技の会計で積極的に補助していく姿勢になっておりますので、端的なものはほとんどクリアできると思います。あとは、小柄な検査技師の視点に立った勉強会をしっかりとやっていくこと。会員のアンケート調査を含めて勉強会をきっちり行うことが底辺の活性化に繋がって、研究班のアセスメントも向上していくものと思われま